No.67

けやき

特集　「本」でつながる　京都で活動する2つの会

REPORT　左京図書館読み聞かせ交流会

REPORT　おとなのための語りを楽しむ会

図書館友の会けやき　ニュースレター　2023.3.3

特　集　「本」でつながる　ー京都で活動する２つの会

図書館と市民をつなぐ活動をしている「図書館友の会　けやき」は、他の団体とも協力しながら、催しを行っています。今号では、かかわりの深い「京都おはなしを語る会」、「京都科学読み物研究会」の活動を紹介します。

○京都おはなしを語る会

「京都おはなしを語る会」は「おはなしのたのしさを子どもたちに、語るよろこびをあなたにも」を合言葉に、京都府下から会員が集まり、活動しています。月１回の例会のほか、保育園・学校や児童館・図書館などでおはなしを語っています。日ごろの活動について聞くため、昨年 12 月の例会にお邪魔しました。

この日の例会では、まず会員一人が 30 分程度のおはなし会を開きました。この日は「誰が鐘を鳴らしたか」と「こびとのくつや」の２題が語られました。静かな語り口からは、クリスマスという特別な日を心待ちにする人々の喜びが伝わってきました。

続いて、皆がテーブルを囲み、話し合いに移ります。先ほどのおはなし会の内容について、語り手がこのお話を選んだ理由を説明し、聞き手となった会員が感想を述べました。その後、会員がそれぞれの活動地域での取り組みや、おはなし会に出向いた先での反応や感想を報告します。そして、これから開催予定のおはなし会について、打ち合わせをしました。

やはり話題になるのは、コロナ禍での催しのあり方です。ほかの団体のおはなし会に参加した時、語り手がマスクを外した形で行われていたという報告がありました。語り手の表情がよくわかり、おはなし会はマスクなしでするのが良いと実感したとのこと。その他にも、コロナ禍で活動が激減した結果、おはなし会を経験していない子どもたちが、長いお話を聞けなくなっていると、長引く影響を指摘。ただでさえ、刺激の強い映像に慣れ、耳から聞くことが苦手な子どもたちが増えている中で、コロナ禍が追い打ちをかけていることを知りました。その後、話は小さな子どもたちが置かれている環境へと広がります。幼児期からスマホを操るなど、機械が子守りをすることが多くなっている今、人の声による語りの大切さを知ってもらわなければと、「おはなし」の必要性を皆

が確認。「自分の活動に自信をもたなくては」という会員の言葉が心に残りました。

今回の例会はここで時間切れとなりましたが、いつもは最後に会員がそれぞれお話を披露し、他の会員に意見をもらう「勉強会」があります。会が長く続くにつれ、会員の年齢も上がります。読み聞かせと違い、語りはお話をすべて覚えて語るので、覚える自信がなくなってきたという不安の声も聞かれましたが、今の時代にこそ地道な活動を続けてきた意味があると、互いに切磋琢磨する姿勢が印象的でした。

子どもを対象にしたおはなし会が多いですが、会が主催する「おとなのための語りを楽しむ会」では長いプログラムにも挑戦。おはなしを耳で楽しみたい、自分も語り手になってみたい、「京都おはなしを語る会」に興味をもたれた方は、まず「けやき」までご連絡ください。

「京都おはなしを語る会」
定例会　毎月第３月曜日　10時～12時　ハートピア京都
連絡先　けやきのメールアドレス（info@totomo-keyaki.com）まで。会におつなぎします。

○京都科学読み物研究会

「京都科学読み物研究会」は1980年の発足以来、「本から自然へ、自然から本へ」をモットーに「やさしい自然教室」と「読書会」を両輪として活動を続けています。事務局の笠川さん、大道さん、高嶋さんにお話をうかがいました。

「やさしい自然教室」は親子向けのイベントで、講師を招いて年６回、自然観察会や科学あそびをしています。きのこやクモの観察会や顕微鏡を使った実験教室など、テーマは多彩です。その分野の専門家が子どもたちにわかりやすく教えてくれます。自然教室は会員以外も参加でき、リピーターも多いそうです。

「読書会」は子ども向けに書かれた科学の本（科学読み物）を中心に大人が比べ読みするという活動で、年度末に次年度のテーマと担当者を決めて、そのテーマに関する本を担当者が紹介します。あらかじめ会報に、読書会で取り上げる本のリストが掲載されるので、参加者は事前にどのような本が紹介されるのか知ることができます。テーマによりますが、毎回10～20冊の本がリストアップされます。読書会当日は２時間使って、それらの本を読み比べ、特徴を紹介。後の会報にそのまとめが掲載されます。参加者は会報で振り返ることもでき、参加しなくても読書会の内容を知ることができます。

「自然教室」と「読書会」の報告を掲載した会報は、２カ月に一回発行され、40ページになることもあり、読み応えがあります。自然教室に参加した子どもたちから寄せられたはがきが掲載され、子どもたちが描いた絵から、彼らがどこに注目したかわかります。会報は京都府立図書館、京都市図書館、歴彩館で見ることができます。さらにこの会報の内容を凝縮したような出版物は、現在までに４冊出され、５冊目の編集作業が進行中です。

京都科学読み物研究会「やさしい自然教室」の様子

自然観察会と読書会を合わせて活動している団体はほとんどありません。この活動を支えてきたのは、専門家の先生方の協力を得て、「科学を子どもたちに」という会員たちの熱意だと、事務局の笠川さんは言います。また京都という場所柄、自然が身近にあり、大学も多く、専門家がたくさんいることも、この会が充実した活動を続けてこられた要因でしょう。

図書館は、団体貸出の制度ができたころから利用してきたそう。読書会ではたくさんの本を長期間借りる必要があります。当初は冊数や貸出方法にも様々な制約がありましたが、要望を出し、改善されてきました。一方、京都府立図書館、京都市図書館で司書の研修を担当したり、左京図書館読み聞かせ交流会では、小学校で活動する図書ボランティアにブックトークをしたり、図書館へ活動の成果をフィードバックしています。他府県の図書館からの講師派遣

の依頼も増え、活動の幅が広がっています。

取材の最後に、1982 年発行の会報を見せていただきました。手書き文字で縦書きのそれは、時代の変化と、その中でなお変わらず活動を続けていることの重みを教えてくれました。

「京都科学読み物研究会」

やさしい自然教室　年６回　参加費が必要

読書会　主に第４火曜日 10 時～12 時　ハートピア京都

いずれも、ブログで確認の上、メールでお申し込みください。

ブログ　https://blog.goo.ne.jp/kyotokagakuyomimono

メール　kyotokagaku@yahoo.co.jp

REPORT　2022 年度

左京図書館読み聞かせ交流会

毎秋、京都市左京図書館主催・けやき企画協力で開催している「読み聞かせ交流会・絵本入門講座」。18 回目の今回は、3 回の講座にのべ 51 人の参加がありました。

第１回　子どもは絵本がだいすき
～絵本体験を共有しませんか～
講師　中川あゆみさん（名古屋女子大学）

10 月 3 日

読み聞かせ交流会立ち上げ当初からお世話になっている中川あゆみ先生に、3 年ぶりにお越しいただき、ご講演いただきました。

講演は先生からの「なぜ皆さんは読み聞かせの活動に興味を持ち、続けてこられたのでしょう？」という問いかけからスタート。続けて、絵本編集者・松居直氏の「（絵本の意味や役割とは）共に居ることである」という言葉を紹介し、絵本とは一人で読むものではなく大人が子どもに読んであげる、耳から「ことば」を聞くものであると、話されました。

また、作家・柳田邦男氏の「絵本は人生に 3 度」出会うものだという言葉も挙げ、「今皆さんは何度目の出会いでしょう」と尋ねます。先生自身は、現在大学で絵本について教える立場として、4 度目の出会いを経験し、今後また増えていくかもしれないと話されました。

次に、「なみにきをつけてシャーリー」（ジョン・バーニンガム作）という大人と子どもの見ている世界のずれがテーマの絵本を紹介。子どものころにはわからなかったことが、大人になってわかることもあれば、子どもには見えているのに、大人は見落としていることもある。同じ絵本でも、時を経て出会うと新しい気付きがある。大人が子どもに絵本を読んでいても、二人に見えている世界は異なるのかもしれない。しかし、「共に居て」一緒にお話の世界に入っていくことが大切と述べられました。

現在、スマホなどに安易に頼った結果、子どもたちが本当の絵本体験をしないまま、小学校へ上がっているように

読み聞かせ交流会　第１回の講演の様子

けやきの本棚

No.67

図解 頭のいい説明

「すぐできる」コツ

鶴野充茂著　三笠書房　2016 年

この本は、ビジネスマンがプレゼンテーションしたり営業トークをする時に役立つ内容になっていますが、学生であっても、主婦であっても、人付き合いの少ない人でも、他人にわかりやすく話せるコツを知っておくことは大切です。特に子供に説教する時、ダラダラ小言を言うのではなく、わかりやすく結論から始めると、子供から信頼され納得させられるかもしれませんよ？　同タイトルの漫画版も出版されていますので、そちらもオススメです。　（会員 中原）

思うとのこと。また小学校の先生には児童文学を学ぶ機会が設けられておらず、このような状況で、子どもと絵本をつなぐボランティアの役割は大きいと説明がありました。

最後に、人生で何度も絵本に出会う意味をこの活動に関わる人には感じていてほしい、と励ましの言葉をいただき、活動する理由を各々が考える時間となりました。　（澤田）

第２回　前半　やってみよう！読み聞かせ
講師　岡部美樹さん（左京図書館司書）

後半　科学絵本・科学読み物ブックトーク
「渡り鳥の不思議」
講師　島崎真紀子さん
（京都科学読み物研究会会員）

10 月 13 日

読み聞かせ交流会第 2 回は参加者 25 名、前半は司書さんによる「やってみよう！読み聞かせ」。読み聞かせの基本の基本を教えて下さる講座で、初心者だけでなく、長く活動を続けている方が復習の為にと、多くの参加があります。自分が楽しめる本を選ぶこと、子供達と共に楽しい時間を過ごしたい気持ちが大切ということです。

後半は島崎さんによるブックトーク「渡り鳥の不思議」。ブックリストにあがった 60 冊余りから 10 数冊を紹介。それぞれ絵、写真、文の多いものなど様々です。鳥と一緒に渡りをしているような気にさせてくれる構成の絵本が増えてきているとのこと。また、子供にわかりやすく語りかけるもの、著者の渡り鳥を探求する熱意が伝わってくる本もお勧めだそうです。同じ一つの不思議についても本によって書かれ方は色々なのが比べ読みをしているとわかってくるということでした。

この 100 年～200 年で人間の起こした環境変化により鳥の棲み方も変わってきました。鳥は安心して巣作りができる場所、環境の良いところをめざして移動します。現代では鳥に装置をつけて追跡調査する事もできます。渡り鳥の生態を調べると地球環境の変化がわかり、大きな視点を渡り鳥は教えてくれるのです。

参加者からは「いつも目にしてきた渡り鳥の情報が得られてすっきり」「年に一回のブックトークでも一回ごとに少しずつ詳しくなれて嬉しい」などの声が寄せられました。

（山形）

第３回　小グループに分かれて絵本の読み語り実践交流

10 月 18 日

読み聞かせ交流会３回目は、小学校で読み聞かせの活動をしている人達が互いに絵本を読み合う実践交流です。初めての方からベテランまで総勢 13 名の方が集まりました。

前半は、２つのグループに分かれ、順に活動歴や選書の理由を話し、絵本を読み合いました。お話の展開が面白く、思わず「わぁー」「きゃー」と声が出たり、「絵の細かい描写に気付いた」、「癒された！」など読んでもらう醍醐味を味わいました。

後半は、全員集合して各グループで読まれた本を紹介し、話し合われた内容を共有しました。好きな本、季節物、子ども達に届けたい本等がバラエティに富んで揃いました。そして、『昔話は残酷なシーンもあるが、排除することなく、子ども達の怖いという気持ちに共感しつつ、届けていこう。』『本の見返しは、お話につながる大切な絵が描かれているものも多い。作者の意図があるので、どの本も必ず見せよう。』『読み方の基本はあるものの、正解は 1 つではない。色々な読み方があってもいい、それぞれの個性で好きな絵本を届けていこう。』といった意見が聞かれました。また、コロナ禍の教室での読み聞かせは、互いにマスクをし

探偵は教室にいない

川澄浩平著　東京創元社　2018 年

海砂真史は差出人不明のラブレターの謎を解いてもらうため、９年ぶりに幼馴染の鳥飼歩と再会する。歩は少し変わっているが、頭の切れる少年だったのだ。友人の不可解な行動、浮気疑惑、そして家出。真史の周りで起こる小さな事件を歩が解き明かしていく。

中学生たちの心の機微を、日常の謎と共に描く青春ミステリ。

少年少女が少し前へ進む姿が繊細に表現されています。上質な謎と甘酸っぱい青春模様を堪能できる作品です。

（左京図書館　小村）

ているせいか子ども達の反応が薄いように感じられるとの声がありました。徐々にコロナ前の体制に戻っていけることを願って、『子ども達がほっとできる楽しい時間を届けていこう』と分かち合いました。

参加者からは「絵本の選書で悩みがちだったので、参考になった」、「学校での工夫が参考になった」、「色々な絵本を知ることができてよかった、豊かな時間だった」等の感想を頂き、有意義な時間となりました。（山口）

TOPICS　第 22 回

おとなのための語りを楽しむ会

2023 年 2 月 18 日

少し寒さが和らいだ土曜日の午後、左京図書館上階の会議室で「おとなのための語りを楽しむ会」を開催しました。雨が降ったりやんだりのあいにくのお天気でしたが、20 名ほどが集まり、お話に耳を傾けました。

今回語られたお話は全部で 8 話、日本やアイヌの昔話をはじめ、アフリカ、イランのお話にグリムの昔話と、世界各地で語られてきたお話を聞きました。語りだけを聞いて想像するお話の世界は、聞き手ごとに違うはず。会場に集まった人それぞれが、自分なりの美しい花嫁やおいしそうな大福もちを思い浮かべます。語り手も聞き手も集中して一つのお話を共有する、不思議な緊張感がありました。

例年、「京都おはなしを語る会」の協力を得て実施していますが、今回は左京図書館の司書さんも 1 話語ってくださいました。図書館が本と人だけでなく、人と人をつなぐ場であることを感じ、次回もさまざまな人が語りを楽しむ場になってほしいと思いました。

【プログラム】

てきぱきシアンシアンのむこえらび（中国の昔話）
だいふくもち（日本の昔話）
タラコーと亀（アフリカの昔話）
クナウとひばり（アイヌの昔話）
まめたろう（イランの昔話）
みそ買い橋（日本の昔話）
若返りの水（日本の昔話）
ラプンツェル（グリムの昔話）

けやきの活動記録

2022 年 11 月～2023 年 3 月

1 月～　インスタグラム開設
2 月上旬～　「えほんのひろばinきょうと」準備
2/18　おとなのための語りを楽しむ会
2/10～3/10 「図書館で発表会」展示
3/3　ニュースレター67 号 印刷・発送

<事務局会議>＜図書館とのミーティング＞（主に第 1 金曜日）
12/2,　1/13,　2/3,　3/3

＜図書館おたのしみ会に協力＞（第 4 土曜日）
11/26,　12/24,　1/28,　2/25

＜絵本学習会＞（第 4 金曜日、3,7 月は第 2 金曜日、8 月は休み）
11/25,　12/9,　1 月は荒天のため中止,　2/24,

＜「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動＞
（毎週木曜日 10:30～12:00）
休止中

魔女だったかもしれないわたし

エル・マクニコル著　櫛田理絵訳
PHP 研究所　2022 年

この本の主人公は、「アディ」という自閉的な女の子。アディが住む村では、昔、人と少しちがうだけで魔女と決めつけられ殺された女性たちがいました。そのことを知ったアディはその人たちを忘れないために慰霊碑を作ろうと、お姉ちゃんや新しい親友の力を借りて運動を進めていきます。

この物語では、「仮面」というキーワードが出てきます。少し暗いテーマですが、仮面とは何なのか、本を読みながら考えてみてください。（小 6　ゆき）

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ　一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと 1999 年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第４土曜日 11:00）に協力。絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30 ～ 12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画･協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第４金曜日 10:00 ～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費 500 円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。活動費の寄付も歓迎。

郵便振込口座　口座番号 00920-8-156914 番
口座名称　図書館友の会　けやき

◆入会･活動への参加などお問い合わせは下記の事務局へメールで。

◆図書館友の会けやきホームページをぜひご覧ください。
ニュースレターのバックナンバーも掲載しています。

けやき情報版

えほんのひろば　in　きょうと

日時：4 月 23 日（日）午前 10 時 30 分～午後 2 時 30 分
会場：左京図書館上階会議室

おすすめの絵本がすべて表紙を見せて並びます。
午前と午後に 1 回ずつ、スタッフが絵本を紹介する時間もあります。
図書館のひとつ上のフロアまで、ぜひお越しください。

インスタグラム始めました！

催しの案内を中心に、少しずつアップしていきます。
「図書館友の会けやき」で、検索してみてください。

赤い羽根共同募金

ニュースレターは赤い羽根共同募金からの助成を受け作成しています。

編集後記

今号掲載の秋から冬にかけての催しでは、聞くことの大切さを教わりました。中川先生が紹介された「絵本とは耳から『ことば』を聞くものである」という松居直氏の言葉、また、「おとなのための語りを楽しむ会」での表情豊かな語り。昔の子どもたちは当たり前に受け取っていた人の声のぬくもりが、今の子どもたちには特別なものになっているのではないか。反省も含めて思いました。（澤田）

2 月 10 日から京都市図書館で電子書籍サービスが始まったと聞き、ホームページ上の利用ガイドを頼りに、電子書籍を借りてみました。すでに多くの本が予約待ちでしたが、なんとか随筆や科学絵本を自分のパソコンで読むことができました。興味をもった本が自分の手元にすぐに「現れ」クリック一つで返却できることを体験。様々な機能もあるようです。いずれけやきでもこのサービスについて取り上げたいと思います。（島崎）

◇けやき 第 67 号　2023 年 3 月 3 日
◇制作　図書館友の会 けやき　ニュースレター編集部
題字：吉政 冨美子　　デザイン：伊藤 理恵子
◇発行　図書館友の会　けやき
HP　：http://totomo-keyaki.com
Mail　：info@totomo-keyaki.com